

【目指す教師の姿】**チーム赤坂小**～子どものために学び続ける教職員集団

- 全体の奉仕者としての自覚と責任感、使命感をもつ教職員
- 組織の一員として同僚性を高め、共に力を合わせる教職員
- 情熱をもち、子どもの未来に必要な力を身に付けさせようと挑戦し続ける教職員
- 研修等を通して自己研鑽に努める教職員
- 子どものよさや可能性を見出し、個に応じた指導の在り方を考える教職員
- ワークライフバランスを意識し、心身ともに健康で人生を楽しむ教職員

【目指す子どもの姿】**もっとみんながA (エース=主人公)**

自ら考え、挑戦し、仲間と協力してやり遂げようと努力する子ども

- 心豊かな児童【徳】
 - ・笑顔であいさつができる児童・思いやりがある児童
- 心身ともに健康な児童【体】
 - ・健康と安全を考えて行動できる・強い心と体で頑張り抜く児童
- 自ら学び考える児童【知】
 - ・よく考え、学ぶ児童 ・自己決定できる児童

★ **キャッチフレーズ「めざせ！あかさかっ子」** ★

あかるい子（明るく笑顔で友達に接することができる子）
 かんがえる子（学習でも学校生活でも、しっかり考える子）
 さいごまであきらめない子（何事においても最後まで取り組む子）
 かっばつで元気な子（基本的な生活習慣が身に付いている子）

【取組の方向性】

- 予測不能な時代を生き抜く力を育む。
 - ・求められる力を見極める
- タテ・ヨコのつながりを生かす。
 - ・たて割り活動、幼小連携、小中一貫
 - ・地域の教育力、地域人材の活用
 赤坂ふるさと会・赤坂地区社会福祉協議会との連携

【成果と課題】

- 楽しく学校に通えている。
- 優しく、思いやりの心がある。
- 考えを広げる・深める。

△GIGA 端末の活用 ▲家庭における読書習慣の確立 ▲情報モラル、メディア使用のルール ▲業務改善

【土台】**深く根を張る**

- 凡事徹底…「時を守り、場を清め、礼を正す」
 - ・時間：先生自ら始まりと「終わり」の時間を守る。
 - ・掃除：適切な人数、掃除の仕方を教え共に汗を流す
 - ・挨拶：先生から声かけ、敬語で、節度をもって
 - ・揃える：学習道具、提出物、宿題、姿勢、言葉遣い
 - ※ 初めの3日が肝心…示す、評価する、徹底する
- 命と心身の健康を守る
 - ・ケガをしない・いじめのない安心安全な学校
- 人権意識の高揚
 - ・週1時間の道徳科授業の充実
 - ・新版「いのち」「子どもつながりプログラム」活用

【柱】**幹を太くする**

- 基礎的な知識・技能の習得
 - ・読み・書き・計算の繰り返しによる習得
 - ・子ども同士の教え合い
 - ・チャレンジタイム（15分×3回：国算）、補充学習による学習内容の定着、コグトレの適宜実施
 - ・AI型学習アプリの活用
- 自己有用感の醸成
 - ・たて割り活動の充実
 - ・赤坂スポーツフェスティバル等、子どもが主体となって企画運営する機会の設定
- 挑戦する心の育成
 - ・トライ&エラー、失敗を共にたたえ合う

【屋根】**枝葉を豊かに広げる**

- 個別最適な学び・協動的な学び
 - ・学びの個性化・指導の個別化、協働化の視点
 - ・子どもが主体性を発揮する授業デザイン
 - ・探究的な学びを通して、課題を発見、解決する力を育て、「分かった・できた」が実感できる授業づくり
- 形成的評価の充実・「振り返り」活動の推進
- 学びの転換：子どもが主体的に学ぶ授業
- ICTを活用した授業実践（主題研究）
- 自主学習の推進
 - ・家庭学習マイスター賞（前期・後期）表彰
- 読書週間の設定（年2回）・学校まるごと図書館

【目指す学校の姿】～『また明日』の音が響く学校～

<一人一人の人権を尊重する学校>

- いじめ（の芽）事案への速やかな組織的対応
- 体罰や威圧的言動等の禁止、子どもに寄り添う指導
- 特別支援教育の充実
 - ・児童の状況について共通理解
 - ・ユニバーサルデザインの視点で学級・授業づくり
 - ・担任間による交流の内容等についての確認
 - ・特別支援学校のセンター的機能の活用等、関係諸機関との積極的な連携を図る

<新たな課題に挑戦する学校>

- 持ち合い授業、専科指導：子どもの多面的理解、授業の質の向上、教員の働き方改革、中1ギャップ解消、
- 2学期制の強みを生かす：子どもと向き合う時間確保、補充学習、学年で進度・評価等確認
- 小中一貫教育：9年間を見通した各教科等のカリキュラム作成・幼小連携架け橋プログラム
- 地域の教育力の活用(国型CS)

<積極的な生徒指導で危機を回避する学校>

- 朝の出欠確認、不明の場合は即時に安否確認
- 学校事故・交通事故などの未然防止
- 不登校児童対応：連絡・関係機関との連携
- ケース会議の適宜開催：情報共有・対応協議
- アレルギー対応給食の安全確保の徹底
- 心の健康観察、「心と体アンケート」継続
- 報・連・相で確実な情報共有、一人で抱え込まない